

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4071501557		
法人名	社会福祉法人 それいゆ		
事業所名	グループホーム なかまちの家		
所在地	大牟田市中町1丁目5-2 (電話) 0944-41-5315		
自己評価作成日	平成 23年 4月 20日	評価結果確定日	平成 23年 7月 8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

入居時になじみの家具や使い慣れた食器、思い出の詰まった写真などを持ち込んで頂き、在宅生活に近い環境作りに努めている。理念である「願いや想い」を実現する取り組みとして、入居者の発案で始まった「なかよし会」で個々の希望や要望を出して頂き、その中で飼う事になった犬は御自分たちで名前をつけられ、今では入居者の精神的な癒しとなっており、和む存在となっている。作業療法士による週1回の回想法や週3回の頭の体操など、良い気分転換と刺激になっている。又、家族との絆を大切にし、宿泊の受け入れや外出、外泊も奨励している。地域活動として、月1回の清掃や子供見守り隊に参加し、子供たちの登下校時の安全を見守っている。又、職員は法人内研修や外部研修に積極的に参加し、資質向上に取り組むと共に、他施設や市職員の研修も受け入れており、共にスキルアップに努めている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.fsw.or.jp/kohyo/top.html
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会	
所在地	福岡県春日市原町3-1-7	
訪問調査日	平成 23年 6月 2日	

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

運営推進会議の参加への働きかけを推進委員と共に取り組み、多くの地域関係者に参加していただいている。年間を通して地域の行事に参加し、保育園児から高齢者まで近隣の多くの人々と交流している。地域づくりに貢献できるようにを目標に掲げ、地域と支え合う関係を構築している。「大事な家族や地域との絆から人は支え合い、共感する事ができ、心満たされ安らぎが感じられる」ことを理念の1つに掲げ、家族や地域との関係を大切にして、今までの暮らしが続けられるように、知人に一緒に会いに行ったり、事業所の行事や誕生会等に参加していただけるように連絡を取り、関係が途切れないように支援をしている。

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り時に理念を唱和している。ケアの仕方に悩んだり、スタッフ間で行き詰まった時は、理念に立ち返り検討するなどの取り組みを行っている。	法人の理念を基に職員全員で事業所独自の理念を作成している。朝の申し送りの時に理念を唱和し、職員全員で共有して日々のケアの中で理念の実現に向けて取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の子供見守り隊に参加し、児童の登下校の安全を見守ったり、幼稚園、小中学生の体験学習や訪問の受入を行っている。地域の会合やゲートボール大会や夏祭りにも参加し、地域の方々との交流を行っている。又、地域の方から野菜等の差し入れを頂いたり、施設で収穫した野菜を配ったりしている。	地域の四季の行事や子供見守り隊などに参加している。隣近所の人が差し入れを持ってきて下さったり、事業所で採れた野菜をおすそわけするなど、地域の人々と行き来しながら、日常的に地域との付き合いを大切にしている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域認知症サポートチーム専門医からの認知症についての講演をして頂いたり、徘徊模擬訓練にも参加していただき、認知症という病気を理解して頂く機会を作っている。又、見学や相談も受け入れ、実践経験を含めてアドバイスしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者や御家族、民生委員、地域の有識者、安心介護相談員、市や地域包括支援センターの職員、駐在所や消防署職員などに参加して頂き、ホームからの報告だけでなく、要望や予想されるリスク等も一緒に検討し、忌憚のないご意見をいただきながらサービスの向上に生かしている。	利用者や家族、地域（校区社協理事、会長）の代表、民児協会会長、公民館長、市の職員、あんしん介護相談員、包活支援センターの職員、消防署員、警察署員が参加して2ヶ月に1回開催している。現在の取り組み状況や今後の活動計画等を報告し、委員からの意見や要望をもらい、運営に反映させている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の新人職員の研修を受け入れ、認知症の理解や暮しぶりなどを体験してもらっている。又、家族会からの要望があれば、講師として勉強会に参加してもらったり、何でも気軽に相談できる関係が築かれている。	市の新人職員の研修を受託しており、体験を通して現場の職員や利用者への理解を深めるために活用してもらっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	母体である病院が「抑制廃止福岡宣言」を行った病院である為、職員は入社と同時に研修を受け、身体拘束の体験をしてもらい、拘束によって受ける精神的、肉体的弊害について理解している。入居者が抱えるリスクに対して、常に見守りや声掛け、付添などで対応している。	全職員が身体拘束に関する研修を受け、身体拘束をしないケアについて理解している。また、見守りや声かけを行い、安全面に配慮して支援している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	法人内での「虐待防止」の研修会に参加し、虐待や拘束が及ぼす影響等をしっかり理解し、防止に努めている。日頃から職場環境を明るく楽しい和気藹々の雰囲気の中で仕事ができるようにして職員のストレス軽減を図っている。又、御家族や職員の心理を理解し、サポートやアドバイスも行っている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内研修会に積極的に参加し、制度の理解に努めている。新人職員には、オリエンテーションの時に権利擁護に関する説明を行い教育している。御家族から相談がある時は、相談機関（社会福祉士会）などに繋いでいる。現在2名の方が利用されている。	管理者や職員は制度についての内部・外部研修に参加しており、事業所でも勉強会を行い、理解に努めている。利用者や家族にも利用開始時や家族会で説明を行っている。制度利用が必要と思われる利用者には、随時支援を行っている。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を交わす時は、御家族に十分説明を行い、疑問や不安点を尋ねて説明し、理解、納得を得ている。介護報酬改定の場合は、家族会に於いて資料と共に説明し、個人的な説明も行っている。長期利用による経済的負担の相談を受けた場合は、話し合いを行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1回開催される家族会には職員は同席せず、遠慮なく意見や苦情、希望などを出して頂いている。個人的な御家族の要望や不安などもいつでも相談に乗っており内容によっては関係機関との橋渡しも行っている。又、入居者の発案で始まった「なかよし会」の中では、利用者の発言の場を作り、その意見を運営に反映させている。	家族会は2ヶ月に1回家族の主催で職員も出席して意見交換を行っている。利用者の要望を募り、日帰り旅行や花見、食事等の支援を行っている。また、大牟田市あんしん看護相談員の訪問を受け入れ、利用者の思いを表せる機会を設けている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者自身が現場の中で、他職員と共にケアにあたっており、利用者の状況やホームの方針等も職員と共に考え、意見や提案を活かしている。	管理者は、申し送りやスタッフ会議の際に、職員の意見や提案を聴くようにしている。互助会の旅行や食事会や懇親会などで職員間のコミュニケーションを図るように心がけ、気持ちよく働けるように配慮している。やむを得ず職員が交代する場合の引継ぎの期間を4人体制にし、利用者への配慮の取り組みをしている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の職員アンケートや個人面接の他にも、本人の長所を生かして楽しく働けるように努めている。ホームで互助会を作り、職員同士で食事会や旅行などの交流を行い良い関係作りに努めており、職員は仕事に対して意欲的である。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとしして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用にあたっては、年齢や性別等を理由に排除していない。職員には面接やアンケートを实地し、職員一人ひとりの目標を確認し、それが達成できる環境づくりに努めている。資格取得の奨励やその職員の個性が十分に発揮できるように努めている。	安心して働ける職場環境を目指している。外部研修や会議への参加を推進し、資格取得への協力体制を整え、能力が十分に発揮出来るよう配慮している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人全体で「法令遵守」や「倫理規定」について研修会を实地している。研修会に参加できなかった職員についても、職員会議の折に伝達講習を行っている。	法人全体での内部研修を行っている。また、外部研修へ参加し、参加できなかった職員には、職員会議で伝達研修を行い職員全員で共有している。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員育成のために、法人内他事業所と合同で2ヶ月に1回研修会が行われている。経験年数や習熟度に応じてGH協議会が主催する研修会や認知症介護実践者研修、市主催の研修会にも参加させている。研修受講後は会議の時に伝達講習を行い、全職員に周知している。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所にも行事へお誘いしたり、招待されたりして、入居者を含めた交流を図っている。又他ホームからの職員研修の受け入れも行い、意見交換できる機会がある。グループホーム協議会にも加入し、他ホームとの情報や意見の交換を行い、ケアやサービスの向上に活かしている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期段階では、不安や心配が多いと考えられる為、スタッフ一人ひとりが細やかに関わり、ご本人の思いや希望に耳を傾けて信頼関係を築くように努めている。ご本人の言葉は記録にも記入し、全職員で把握できるようにしている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族の要望や思いを聞く為に、スタッフと御家族がゆっくり話ができる環境を作っている。入所直後は、面会の回数を増やして頂き、御家族の不安や利用者の暮らしぶり等を話し合いながら御家族との関係を深めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時の本人の状況や家族の希望などを見極め、気になる家のことや受診の事など必要に応じてサービスを提供している。こまめに関わりを持ち、徐々に馴染まれるように、OTによる頭の体操や回想法など、その時何が必要かをスタッフ全員で考え実行している。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の得意な事や生活習慣など把握し、ご本人の力を発揮して頂く場面を多くするように心掛けており、役割作りに努めている。出来る事が喜びとなり、自信に繋がるように支援している。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族の面会時には、近況を細やかに報告したり、記録を読んで頂いたりして、ホームでの暮しぶりを伝えている。また、御家族の希望も聞き、御家族と密に意見交換しながら、共に理解、協力しながらご本人を支援している。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのお店や美容室を利用して頂いたり、時には、自宅へ行き、御近所の方に御挨拶したりして関係を保たれるよう努めている。ホームへも、いつでも遊びに来て頂ける様お誘いしたり、イベント、行事の際には声を掛けるなど、友人、知人との関係が途切れないように努めている。	職員は、利用者の馴染みの人や場所などを利用者や家族から情報収集して把握おり、馴染みの場所へ一緒に出掛けている。また、利用者の知人宅へ行ったり、来てもらったり、今までの関係が途切れないよう支援をしている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの利用者の他入居者との関係性をよく把握し、利用者本人にとって他の利用者がどの様な存在であるか、どの様に関わっておられるか等、スタッフは理解し、支援している。一人ひとりの利用者が孤立されない様、スタッフがつなぎの役目となるよう努めている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームを退居された方や御家族に対して、その後もいつでも相談に応じる事を説明している。又、入院や特養入所による退所の場合は、情報提供をしたり面会に行ったりして事業所や病院とも連携を図り、退所後のフォローに努めている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者の日々の生活の中での何気ない言葉や行動など、些細なことからご本人の思いや意向を汲み取って支援している。利用者の生活歴や御家族との関係など、スタッフ全員が把握していることで、利用者の希望に添った暮らし方などをスタッフ間で検討して提供している。	職員は利用者寄り添って話を聴き、思いや意向の把握に努めている。意思疎通が困難にならなくても、日々の言葉や表情から推測したり、ご家族や関係者から生活歴の情報収集し、職員、家族、関係者で話し合い、本人の思いを大切に受け止めて支援している。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々の利用者の生活歴を知る事で、言葉や行動と繋がる事がたくさんあることを日々感じている。ご本人の好きな事、楽しいと感じる事、それらをホームでも取り入れ、実践している事で生き生きとした表情をみることができている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人が今までしていた事、これからはしていきたいと思われている事を出来るだけ続けて頂けるよう努めている。少しずつ出来なくなられていても、スタッフが少し介入する事で、出来る事がまたたくさんあるという気持ちで利用者関わっている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人や御家族の希望を取り入れながら、プランを立案し、臨機応変に見直している。介護計画の評価とは別に個別に毎月の評価をしており、ご本人のひと月の暮らしぶりを通してプランの見直しや達成度を把握するようにしている。	本人やご家族との日頃の関わりの中で、思いや意見を聴き、職員や医師の気づきや意見等を踏まえて、本人本位の計画を作成している。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の変化や言葉、行動に応じてどのような対応をしていくことがよいかを、スタッフ一人ひとりが考え、記録に残している。記録の中でもアセスメントやモニタリングすることで、スタッフ間での情報の共有や、介護計画に繋げる事ができている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	遠方に住んでおられる御家族の方が安心して面会に来て頂く為に、気軽にホームに宿泊して一緒に過ごして頂いたり、空き家となっている自宅へ同行し、家の窓を開けて風を通したり、仏様のお参りなどの支援をしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者がホームから一人で出て行かれた際に、安全に早期発見できるように御家族の了解の元、利用者の写真や特徴を載せた用紙を併設のデイサービスや行き付けだった理容室、民生委員さん、交番などに渡しており、地域の力を借りた取り組みをしている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の入居前からのかかりつけ医との関係を大切に、入居後も適切な医療を受けられるように支援している。 スタッフが受診の同行を行わない場合には、御家族を通してかかりつけ医へ入居中の利用者の変化や気づき等情報提供を行っている。また、受診結果等については、御家族と情報交換を行い、情報を共有している。又、本人の身体の状態や御家族からの希望があった場合は、かかりつけ医の変更をしている。	本人やご家族が希望する医師をかかりつけ医として入居後も支援している。通院方法や受診結果等の情報の共有については、家族と十分に連絡を取りながら支援している。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の身体の変化や気づきがあった場合は、すぐに看護師に申し送る事で情報を共有し、対応について話し合い、実行する事ができている。 定期受診や往診の際は、利用者の近況を報告する事で、医療との連携に努めている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院後の環境の変化が、混乱などに繋がる事を理解しており、主治医やソーシャルワーカーとの情報交換や相談が良い関係の中で行えるよう、日頃から関係作りを努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームの看取りに関する方針を説明し、医療受診確認書により御利用者、御家族の意向を確認している。重度化した場合や終末期となった場合は看取り同意書について説明し、主治医や地域支援診療所、訪問看護ステーションとも連携して協力体制の中で支援している。	本人・家族に利用開始時に重度化に伴う「医療受診確認書」に記入してもらい、重度化や終末期など状態の変化に応じて支援をしている。本人や家族の意向を大切にしながら本人や家族、かかりつけ医、職員等で話し合い、関係者全員で方針を共有して支援している。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフ会議の中で、AEDの使い方や痰の吸引などについて実技演習を行っている。 また、連絡先や服用されている内服薬名を記載した個人カードを作成しており、緊急時すぐに持ち出されるようにしている。急変時対応マニュアルも作成しいつでも見れるようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害発生時の火災を防ぐ為、毎日、夜勤業務に入る前に防災点検チェック表に記入し、漏電の恐れがある物のチェックや確認をしている。又、必要な備品等は一箇所に集約されており、職員全員が把握している。今後は運営推進会議でも災害発生時の地域連携について対策を検討していく。	マニュアルを作成している。年2回、避難訓練を行い、うち1回は消防署の協力を得て行っている。運営推進会議を通して地域住民に訓練参加を呼びかけている。非常用備品は隣接母体法人施設に準備している。	食料や備品については、非常事態を想定して、併設施設だけでなく、事業所内にも準備されることをお願いしたい。
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	内部研修などで個人情報やプライバシー、接遇についての理解を深めている。それを活かし、訪室時はノックや「入ります」等の声掛けを実践している。又、トイレ声掛け時は、「トイレ」という言葉は使わないようにし、プライバシー確保に努めている。御家族が記録を閲覧される際は、他入居者名は番号化し、個人情報保護に努めている。	援助が必要な時にもさりげないケアを心がけ、声かけ等にも配慮している。また、他の家族や外来者に対して職員が本人のプライバシーに関して話さない事を徹底している。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の暮らしの中で、一人ひとりの希望や要望を聞いている。又、利用者の皆様が作られた会議「なかよし会」の中でやりたい事やみんなの決まりごと等の意見が出され、発言のない方でもその時の表情や反応を観ながら自己決定できるようにサポートしている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴などおおまかな日課に関しては職員が声掛けを行っているが、利用者のペースに合わせて時間をずらして対応している。利用者は新聞を読まれたり、おしゃべりや犬の散歩、刺し子をしたりと自由に過ごされている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣の際は、利用者に服を選んで頂き、趣味、趣向に合わせた衣服を着用されている。2ヶ月に一回は近所の理容室や行きつけの美容院に行かれ、髪を染めたりパーマをかける等されている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎月1日と15日はお楽しみの日としてお赤飯と刺身、茶碗蒸しなどを提供し、時には出前を取ったりしている。気候の良い時は外庭で昼食を食べたり、外出に出掛けることもある。食材の買い物、調理の下準備や味付け、後片付けまで職員と一緒にやっている。	職員と利用者は、準備から後片付けまで一緒に行っている。食事が楽しいものとなるように何が食べたいのか希望を聴き、利用者と一緒に買い物をしたり、持込や菜園の季節の野菜を使い、利用者の趣味や栄養のバランスにも配慮している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は決めておらず、食材に合わせて調理し提供している。ときどき併設施設の管理栄養士にカロリーや栄養のバランス、彩りや盛り付けなども助言してもらっている。安心介護相談員や市の職員を含めた研修生や御家族などにも一緒に食べて頂き、感想をノートに記載してもらっている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きやうがいの声掛け、見守りをしている。歯の痛みや義歯の不具合がある方には必要に応じて、歯科往診を受けて頂き、口腔ケアに努めている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	部屋にはトイレと洗面台が設置されているため、いつでもトイレに行ける環境となっている。食前、食後にはトイレの声掛け、見守りをして、排泄を促している。紙パンツ使用で入居された方も排泄の失敗が減少し、布パンツになり自立された方もおられ、排泄の自立に向けた支援を行っている。	職員は自尊心に配慮し、さりげなく支援している。尿意のない利用者には、排尿チェック表を作成し、時間を見計らって誘導しトイレで排出できるよう支援している。又、紙パンツやパット類も本人に合わせて支援している。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の間隔をチェック表に記入し、利用者様の排便の状況を把握している。又、普段から繊維ものを多く食材に取り入れたり、体操・散歩などの適度な運動をさせていただいている。排便が確認されていない方には入浴にて温まって頂き、排便を促すなどの支援を行い、快便に繋げている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	ご本人の希望に合わせて、毎日の入浴や夜間の入浴も行っている。拒否がある方には別のスタッフが声掛けたり、時間をおいて再度声掛けしたりと工夫し、決して無理強いせず気持ちよく入浴して頂くよう心掛けている。排泄状況や拒否の状況に応じて、毎日の声掛けで入浴等清潔保持ができています。	本人の希望に合わせて入浴を支援している。入浴を拒否される利用者には、言葉かけを工夫したりやタイミングを図って声かけする等楽しく入浴できるよう支援している。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は頭の体操や歌、フーセンバレーなど頭と体を使っての活動を奨励し、暖かい日には中庭で日光浴や散歩、畑の草取りなどに参加していただき、適度な運動を通して安眠につなげている。又、不眠の方には、入眠を促すアロマを枕元に置き、入眠に繋げている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの処方箋をファイルにまとめ、職員全員で服薬情報を共有し、毎月のスタッフ会議では入居者の状態に応じて、薬の変更などを検討している。服薬の際は必ず確認してから手渡すようにし、確実な服用に努めている。また体調や症状の変化がある際は、医療・看護師と相談し、適切な服薬に努めている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	詩吟や唄、散歩や体操、買い物や山菜取りなど、一人ひとりの楽しみを把握し、それに合わせて職員も一緒に取り組んでいる。又、登下校時の地域の子どもの安全を見守る「見守り隊」や利用者主体の話し合いの場である「なかよし会」へ参加されている。喫煙者は希望の時間にベランダで喫煙され気分転換されている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホーム内だけでの生活でストレスが溜まらない様、天気や利用者様の体調が良い日に合わせて買い物や散歩にお誘いしている。又、利用者の自宅や以前通っていたデイサービスなど馴染み深い場所に出掛けて頂いたり、季節によっては観光地見学や中庭でのランチなど、外の空気や環境を楽しんで頂いている。	一人ひとりのその日の希望に合わせて、散歩や買物等戸外へ出かけている。又、花見や外食等普段は行けないような場所にも出かけられるよう支援している。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	大きな金額に関しては、御家族や利用者様同意の下、ホーム内金庫にて保管させていただいている。小銭くらいの金額に応じてはご本人に所持してもらい、外出の際にはご自分の財布から支払いをして頂くことで買い物の楽しみや社会性の維持に繋げている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居時に御家族の了承の上、連絡先を教えて頂いており、できる範囲で直筆の年賀ハガキや暑中見舞いなど書いていただき、それを送っている。又、利用者様の希望があれば御家族に電話を入れたり、スタッフが御家族に連絡をとる際は、利用者様とも会話して頂き、それを通して「繋がり」を実感していただいている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や植物・飾り物を飾って季節を感じて頂いている。又、昔ながらのダンスや衝立、ミシン、写真や遊び道具などを置き、照明の光、ジュータン、壁紙などは温かみのある色合いにして落ち着いた空間になるよう配慮している。又、暖かい日や天気の良い日は窓を開けて換気し、カーテンを開けて日光を入れ、快適で居心地の良い空間作りに努めている。	昔懐かしいオルガン、ミシン、ダンス、電話機等が程よく配置され、壁面には大きな鯉のぼり、テラスには季節の花が咲いている等、生活感や季節感を採り入れて、居心地良く過ごせるように工夫している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングではテーブルを囲んで入居者同士で会話を楽しめたり、ベランダでは日光浴や犬との触れ合い等、思い思いのひと時を過ごして頂いている。又、ソファに座って新聞を読まれる方もいれば、ビデオ観覧される方など、一人ひとりがその時その時で、自由な時間を過ごして頂けるような空間を作っている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の使い慣れた日用品や馴染みの家具、家電から食器など、入居前に使用されていた物を持ち込んで頂いている。又、利用者様一人ひとりに合わせて、タンスやベッドなどを配置し、「生活者」として不安なく、安全に自由な暮らしをして頂くよう支援している。	寝具やタンス、テレビ、椅子、鏡台等の思い出の品々が持ち込まれたり、写真やマスコット等が飾られたり、本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	テーブルやイス、キッチンなどは利用者が使用し易い高さになっている。又、廊下や部屋のトイレには手すりを設置し、浴室の床には滑り止めのタイルを貼って、安全で自立した生活が送れるように配慮をしている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	-	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
				③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	-	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	-	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
61	-	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
62	-	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
63	-	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
64	-	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2／3くらいと
				③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）	○	①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）	○	①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 （参考項目：11, 12）	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念である「自由な暮らし、願いや想い、人との絆、自分らしさを大切に」をどうしたら理念に合った介護が出来るか話し合い、実践している。地域の方にも運営会議に参加していただき意見をうかがっている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で行われている（子供見守り隊）の参加や幼稚園、小学校の運動会、ゲートボール大会などに積極的に参加し交流をしている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	緊急時の避難場所として地域に提供している。また、認知症の勉強会を行ったり、地域の方が気軽に立ち寄り相談ができるような関係作りを行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回、地域の方や消防署、行政、警察署、地域包括支援センター、ご家族、ご利用者に参加していただきホームの活動の報告を行い、意見や助言をいただき、改善に取り組んでいる。また、消防署や警察署から地域の様子の報告を受けている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	新人の市役所職員の現場研修を受け入れ、認知症の方の理解をしていただくよう入居者の方との意見交換をおこなっている。ご家族との行事ごとにも市の職員の方に参加して頂いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	新人研修や法人内の研修で、拘束をしないケアを徹底している。落ち着きがない方には、自由に動いていただき見守りを行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新人研修や法人内の研修で「虐待防止」の勉強会を開催し、入居者に及ぼす影響を理解し、意識付けを行い防止に努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	新人研修や外部研修が行われており、職員会議の中での伝達講習も行い全員が理解できるようにしている。ご家族からの相談がある場合は、相談機関につなげている。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ホームを見学に来られた際に説明を行い、契約の際には、重要事項の説明を十分に行い、理解、同意を得ている。2ヶ月に一回の家族会でも話し合いをして頂き、疑問があれば説明を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「ぶどうの会」という利用者の会を月に一回開催し、食べたいものや行きたいところなど自由に発言していただいている。家族会でもご家族だけで話し合われており、良い関係作りを心がけている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回のスタッフ会議や申し送りの際に意見を求めたり、懇親会などを行い関係作りをしている。また、上司による面談も行われている。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場での連絡事項を全員に伝えることで、情報を共有している。外部研修に参加することでスキルアップを目指していけるように努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	新規採用者はローテーションで各部署を経験することで、人間関係をよくして働けるようにしている。また、仕事をしながら資格習得にも職員全員で協力している。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	新人研修や法人内研修で「人権、接遇」の研修が行われている。毎月の職員会議の中で伝達講習をおこない職員全員が理解できるようにしている。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修の中でオリエンテーションと基礎研修、ローテーションと行われている。法人内や外部研修に参加したり、介護福祉士、介護支援専門員等の資格取得を支援している。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協議会にも会員登録しており勉強会に参加し交流を図っている。他の事業所からの研修を受け入れており私たちにとても気づきがあり、サービスの向上に取り組んでいる。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前にご家族と共にご本人にもホームに来ていただき、ホームの雰囲気を感じていただき、職員だけでなく入居者との会話で少しでも不安が解消できるようにしている。病院から来られる場合は、職員が面会にうかがいお話を聞いている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学时や入居前に職員とご家族で話をできる環境をつくっている。話を聞くことで不安の軽減や安心していただけるようにしている。また、家族会の様子を説明し関係づくりをしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族に協力して頂き、アセスメントを作成し担当者会議を開催している。今、なにが必要か話し合い、支援を見極め実行している。また、主治医や看護師にもアドバイスをいただきサービスの提供に努めている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の生活の中での食事づくりや片付け、掃除などに関わっていただき、好きな料理や得意なことを教えていただいている。入浴時や就寝前などに個別に話を聞く時間を設けている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	花見や忘年会などにご家族と共に行う行事を計画し、おてつだいをお願いしている。また、面会時には、記録を読んでいただき意見や要望を伺い、ご家族と共にご本人を支えるような関係を築いている。遠方のご家族にはホームでの宿泊も受けている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	併設の施設に幼馴染の方がおられ、面会に行ったり、ご近所だった方の面会を受け入れている。面会時には居室やリビングでゆっくりとお茶をのんでいた。また、病院への送迎や以前利用されていたデイサービスに付き添うなど支援している。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の準備や片付けなど個々の能力にあわせた役割を持っていただき、共同作業を行うことで助け合う関係が深まるように努めている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご本人の状態にあった居場所をご家族と話し合い、併設の施設に移られたり、入院されることもあり、移られても面会に行くなど、ご本人、ご家族とも関係を切らないように努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個別に担当の職員を決めて状態や想いも把握に努めている。また、入居者の会である「ぶどうの会」では、希望や意向をうかがい、困難な場合はご家族と共に検討している。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前にご本人やご家族にお話をうかがい入居時にも、ご家族にアセスメントシートに記入をお願いしている。また、ご本人にも生活習慣や家庭での役割をお聞きして、ホームでも活かせる様に努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝、バイタル測定を行い体調の確認を行っている。掃除や食器拭きなど職員と一緒に出来る事の声かけをおこなっており、その様子を申し送りや会議の中で職員全員に伝え、現状の把握に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の生活をするなかで会話や様子を見て、ご本人の困りごとや思いを知り、ご家族や協力病院の先生、看護師、リハビリの先生に意見をうかがい、担当者会議を開催し、介護計画の作成を行っている。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に担当を決め介護計画の作成や毎月の経過、評価を行っている。状態の変化の応じて介護計画を変更し、職員全員が把握できるように記録のファイルに個々のプランをいれ、いつでも見れるようにしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	遠方からのご家族の面会時や入居者の希望時など、ホームの宿泊支援や病院の受診、買い物付き添いなども行なっている。協力病院からOTの訪問があり、「回想法」や「頭の体操」が行われており参加している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所のスーパーに入居者の方と一緒に買い物に行き、店員さんに声をかけていただいている。散髪は近所の理容店が行き着けになっている。また、ご家族に了解を得て入居者の写真を交番や併設の施設の渡している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院の往診が行われているが、ご本人、ご家族が希望される医療機関にかかれるように支援している。ご家族が付き添えないときは、職員の付き添いで状態報告書を作成し適切な情報を共有している。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置し、入居者の健康管理に努め、介護職員も状態の変化を見逃さないようにし、看護師に状態の報告を行っている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、サマリーを作成し、情報提供を行っている。面会や入院先の医師、看護師と相談し早期に退院できるように医療機関と連携し、必要であれば訪問看護サービスを利用できるようにしている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、医療受領確認書を記入して頂いている。また、重度化した場合にも確認書を作成し、ご家族の終末期に対する意向を確認している。看取りの希望があれば、協力病院や地域診療所と連携し全員で支援している。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の場面を想定し、内部研修や毎月の職員会議のなかでAEDの使い方、心肺蘇生法の訓練を行うと共に、緊急対応のマニュアルを作成している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を年2回行い、法人全体で災害に備えている。運営推進会議でも入居者の状況を伝え、緊急時に協力を得られるようにしている。また、併設の施設では、災害時の食料を確保している。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	記録物は所定の場所に保管し、ホーム外への持ち出しをしない。見学者に居室を見ていただくこともあるため、入居時にご家族にも説明し確認をしている。職員全員が入居者の性格を把握し声かけにも工夫している。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者が落ち着いてあるときにお茶を飲みながら、食べたい物や行きたいところなどの希望を話せるようにしている。また、入居者の会「ぶどうの会」を行い思いや希望をうかがっている。選択肢を少なくし繰り返すことで自己決定ができるように支援している。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	行事などの声かけは行いが参加は自由に行っている。外出の希望があれば付き添い、お天気の良いときは職員から外出の声かけを行い、食事や入浴の時間を遅らせるなどしている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理髪店への希望があれば付き添いを行っているが、ご家族がホームに来られ居室で散髪されることもある。行事や受診の際にも着替えを行いおしゃれをしていただいている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を使い、下ごしらえを入居者と一緒に行い、味付けを見ていただいたりしている。また、1日は赤飯、15日はお刺身を提供している。チラシを見て、食べたいと希望があれば、ピザやハンバーガーを提供し会話を楽しんでいる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に応じて食事の量を考慮し、そして機能や嚥下状態をみて刻みや二炊きで提供している。水分摂取は一日1000mlを超えるようにしているがあまり水分をとれない方には果物を提供している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に個々の能力や状態に応じ、声かけや介助を行っている。夜間帯は義歯を預かり洗浄剤を使用している。歯科の協力病院もあり、異常があれば早期に対処している。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的にトイレに案内しているが「排泄」のサインが合った場合はその都度トイレに案内している。排泄がなかった場合は、職員同士で申し送りを行い早めに案内している。排泄チェック表を作成している方もある。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や果物、繊維質の多い野菜を提供したり、散歩や適度の運動を取り入れている。歩行が不安定な方には座ってできるルームマーチを使っていただいている。自然排便が困難な方には医師に相談して下剤を使用している。また、排泄チェック表を作成し、下剤を調整している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	毎日お風呂を沸かして入れるようにしている。声かけに拒否があっても時間をあけ、再度声をかけている。浴槽や脱衣所に手すりをつけたり、入浴マニュアルを作成し安全に考慮している。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	長時間の座位が困難な方や体調を見て、休息の支援を行っている。食事の後に居室で休まれたり、リビングのソファで昼寝をしたりと自由に過ごしていただいている。歩行にふらつきがある方は床マットで休んでいただき安全を確保している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を個人ファイルに保管し、効果や副作用の把握に努め、飲み残しがないか確認している。また、内服に変更があった場合は申し送りの際、処方箋を全員で確認している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理の下ごしらえや後片付け、掃除機かけ、洗濯物たたみなど普通の生活の中で、個々にできることを役割をしている。買い物や併設の施設で行われている行事ごとに参加するなど楽しんでいただけるように支援している。希望があればアルコールも提供している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族も一緒に、季節の花を見に行ったり外食を行うなど積極的に外出の支援を行っている。また、近所の理髪店の送迎や神社、公園の散歩や買い物など外出できるように支援している。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が困難な方はホームで預かっているが、ご家族に以前使用されていた財布を持ってきていただき、その場の買い物の支払いをしていただいている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望される際は、ダイヤルをして本人さんに変更している。年賀状に名前をたり、記録用紙に一日に様子を書いていただき、ご家族の面会時に読んでいただいている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には、近所の方から頂いた小物を飾ったり、外出時の写真を飾っている。リビングには季節の花を飾り、童謡や歌謡曲をかけるなど落ち着けるように工夫している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの南側にソファを置き、新聞を読んだり昼寝をしたりと自由に過ごせるようにしている。ベランダには椅子を置き、季節の花を楽しんでいただけるようにしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族に協力していただき、馴染みの家具や写真、テレビ、冷蔵庫など持ち込んでいただき、在宅にちかい雰囲気づくりをしている。お花が好きな方には居室に、鉢植えや敷地内に咲いている花を花瓶に入れかざっている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレには手すりを設置している。個々の状態に合わせ、居室に平行棒を設置したり、居室の出入り口にのれんをかけるなど工夫をしている。居室にトイレがあり、夜間帯はセンサーでトイレの電気がつくため少し扉をあけている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	-	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
				③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	-	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	-	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
61	-	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
62	-	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
63	-	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
64	-	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2／3くらいと
				③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）	○	①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）	○	①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 （参考項目：11, 12）	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない